

大江氏 13選

ゆかりの地

初心者コース 大江氏のことを知るなら、まずはココから！



1 寒河江城跡 (地図:E-6)
寒河江大江氏の拠点であるお城。8代当主・時氏(ときうじ)が当主だった室町時代に、二の丸・三の丸まで拡張したといわれ、南北約550m・東西約400mの城となりました。今でも道や堀の跡をとどめています。



2 二の堰 (地図:C-5)
寒河江城を三の丸まで拡張した時に作られたという水路。寒河江川から取水し、寒河江城三の丸のお堀や流路沿いの田畑への用水として使われました。高松堰と谷地大堰もあり、大江氏により農業振興が図られたと言えます。



3 澄江寺 (地図:E-5)
寒河江大江氏13代当主・知広(ともひろ)の菩提寺。9代元時の三男・全岩東純和尙は大本寺(山口県長門市)の住職を務め、知広が付した領地によって澄江院が建ちました。その後、寒河江にも澄江院が建ち、後に澄江寺と改称しました。



4 本橋館跡 (地図:F-7)
寒河江を治めた館(屋敷)跡と伝わる場所。大江広元に代わり、妻の父・多田仁綱が寒河江を治めるためにここに屋敷を築いたといわれています。このすぐ東には最上川が流れていました。今でも堀や土塁の跡や川の跡が残っています。



5 慈恩寺 (地図:A-3)
寒河江大江氏が援助した寺院。鎌倉後期に5代元順(もとあき)が寒河江を直接治めたころ、火災に遭った慈恩寺の復興に協力したと考えられています。本堂には、大江氏の家臣・郷目右京進貞賢が描いた絵馬も飾られています。



6 最上院 (地図:B-3)
慈恩寺の別当。室町時代、大江氏一族から3人もこの住職に就き、大江氏と慈恩寺の関係を強固なものにしていきました。家紋は大江氏の「一文字三ツ星」で、戊辰戦争では長州藩士のこの家紋に興味を示した記録があります。



7 慈恩寺テラス (地図:B-3)
令和3年5月にオープンした国史跡「慈恩寺旧境内」を紹介する施設。大江氏と寒河江や慈恩寺との関係にも触れており、大江氏の治めた400年間に寒河江や慈恩寺にもたらされた文化を知ることができます。

上級者コース さらに深めたい方に、必見のコース!!



8 高瀬山 (地図:G-5)
伊達補宗が陣を構えた場所。永正18年(1522)、梁川(福島県伊達市)の補宗が大江氏を攻め、葛西・岩城・相馬・会津・宮城・国分などの兵を連れて陣を構えました。なお、高瀬山は旧石器から平安時代の遺跡としても知られます。



9 白岩城跡 (地図:A-1)
大江氏の支城。6代・元政は山形の斯波兼頼との戦に敗れた後、防御強化のため領内に支城を作り、白岩城もその一つでした。東西600m・南北450mの区域に5つの堀がある巨大な山城です。



10 寒河江市郷土館 (地図:D-4)
明治時代に建てられた郡役所庁舎と議事堂。今の寒河江市と西山郡を治めるため、明治10年代に建てられました。館内には、寒河江城跡の発掘調査で出土した考古資料も展示しています。
※4月第2土曜～11月第2日曜の土日祝日のみ開館



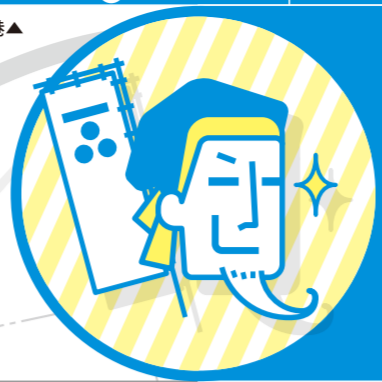
11 法泉寺 (地図:E-5)
寒河江大江氏14代当主・孝広(むねひろ)の菩提寺。戊辰戦争の時、寒河江にきた長州藩士の土野他吉郎と大枝鉄次郎が、藩主毛利氏と同じ先祖を持つ大江氏の菩提寺であることから、お参りしたことが記録にあります。



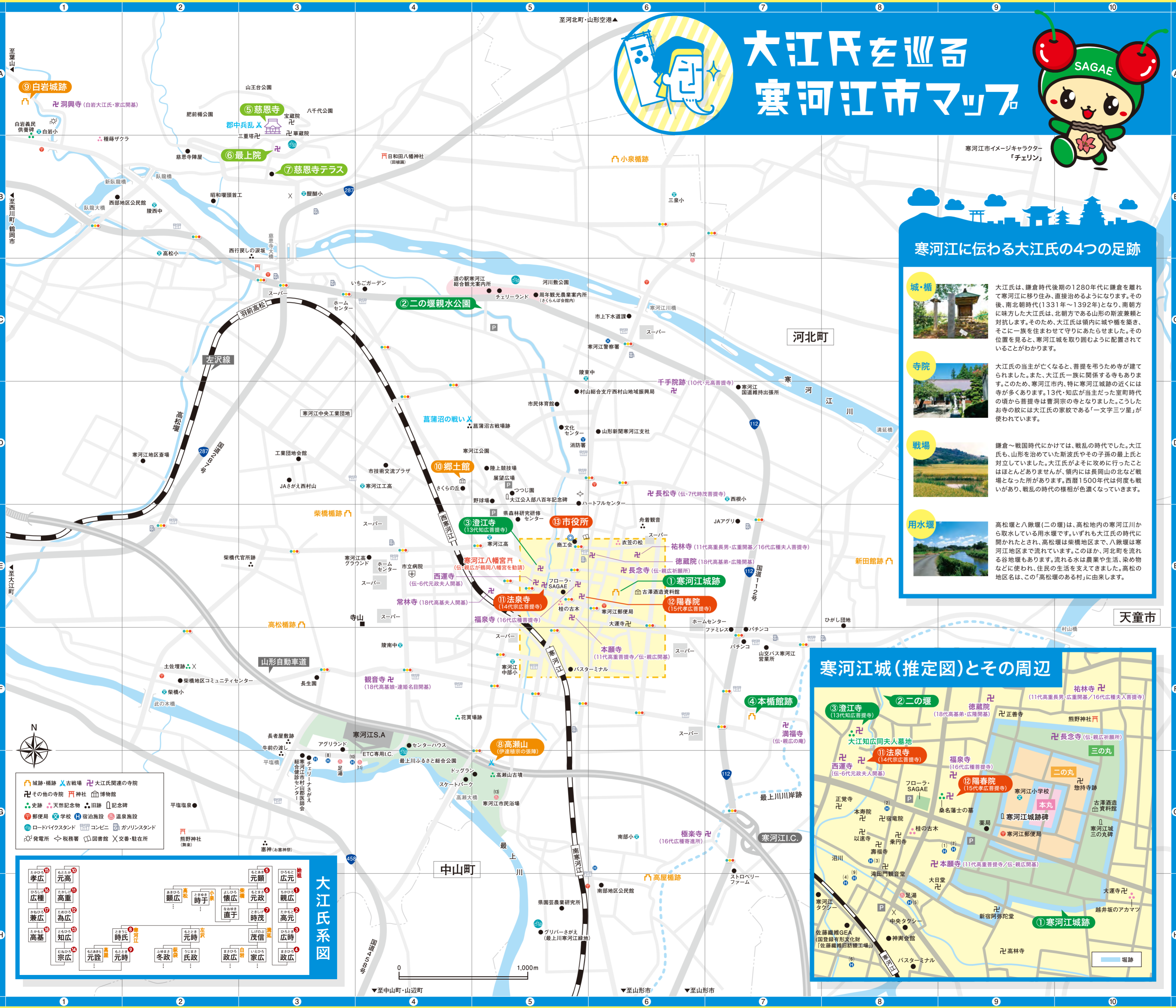
12 陽春院 (地図:E-5)
寒河江大江氏15代当主・孝氏(たかひろ)の菩提寺。戊辰戦争の寒河江戦で、幕府軍であった桑名藩(三重県桑名市)などの戦死者19名を当時の住職が境内に弔いました。その墓は「桑名藩士の墓」として現存します。



13 寒河江市役所 (地図:E-5)
昭和42年(1967)竣工の市役所庁舎。設計は黒川紀章氏で、扉の取っ手と中のオブジェ「生誕」は岡本太郎氏によるものです。吹き抜けの上には大江氏の家紋が刻まれており、寒河江が大江氏ゆかりの地であることを示しています。



大江氏を巡る 寒河江市マップ



寒河江に伝わる大江氏の4つの足跡

城・堀
大江氏は、鎌倉時代後期の1280年代に鎌倉を離れて寒河江に移り住み、直接治めるようになります。その後、南北朝時代(1331年～1392年)となり、南朝方に味方した大江氏は、北朝方である山形の斯波兼頼と対抗します。そのため、大江氏は領内に城や堀を築き、そこに一族を住まわせて守りにあたらせました。その位置を見ると、寒河江城を取り囲むように配置されていることがわかります。

寺院
大江氏の当主が亡くなると、菩提を弔うため寺が建てられました。また、大江氏一族に因縁する寺もあります。このため、寒河江市内、特に寒河江城跡の近くには寺が多くあります。13代・知広(ともひろ)が当主だった室町時代の頃から菩提寺は曹洞宗の寺となりました。こうしたお寺の紋には大江氏の家紋である「一文字三ツ星」が使われています。

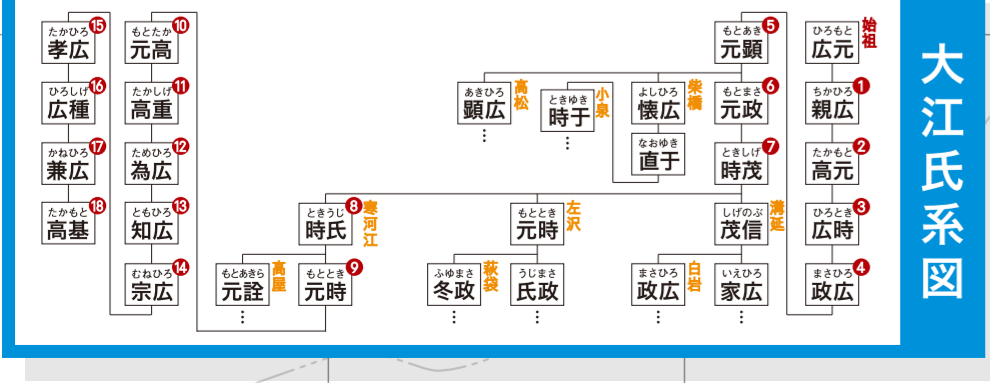
戦場
鎌倉～戦国時代にかけては、戦乱の時代でした。大江氏も、山形を治めていた斯波氏やその子孫の最上氏と対立していました。大江氏がよくそに攻めに行ったことはほとんどありませんが、領内には長岡山の北など戦場となった所があります。西暦1500年代は何度も戦いがあり、戦乱の時代の様相が色濃くなっていきます。

用水堰
高松堰と八敷堰(二の堰)は、高松地内の寒河江川から取水している用水堰です。いずれも大江氏の時代に開かれたとされ、高松堰は桑橋地区まで、八敷堰は寒河江地区まで流れています。このほか、河北町を流れる谷地堰もあります。流れる水は農業や生活、染め物などに使われ、住民の生活を支えてきました。高松の地区名は、この「高松堰のある村」に由来します。

寒河江城(推定図)とその周辺



- 城跡・堀跡 X 古戦場 大江氏関連の寺院
- その他の寺院 神社 博物館
- 史跡 天然記念物 旧跡 記念碑
- 郵便局 学校 宿泊施設 温泉施設
- ロードバイクスタンド コンビニ ガソリンスタンド
- 発電所 税務署 図書館 文庫・駐在所



初心者コース・其の言

初心者コース・其の言

上級者コース・其の言

上級者コース・其の言